

①長期目標 (2010年目 途)	1. 社会的な問題に対する研究活動の実施 2. 学校教育への貢献 3. 社会への説明体制の整備	④実施状況と達成度の評価				⑤今後の課題と対応・計画 (全ての項目について、今後の 課題と対応・計画を記載す)	備考
		中間評価(9月)		最終評価(4月)			
		活動内容	評価	活動内容	評価		
②中期計画/事業 (アクションプラン)	③年度計画						
火山工学研究小委員会、斜面工学研究小委 員会、土構造物の性能設計等、社会的に影 響のおきな問題について研究活動を進める ことにより、社会への貢献を図っていく。	(1)火山工学研究小委員会： (a)火山噴火災害の事例研究の継続 (b)ハザードマップなどの火山災害情報の 工学的評価・危機管理システム・都市防災 に関する研究 (c)噴火・土石流・泥流の力学モデルの確 立 (d)住民への啓発活動・防災教育 (e)火山噴火災害関連法律の研究 (f)土木学会誌7月号特集「火山噴火に備え る一富士噴火はいつ」の叢書化を検討	(a)浅間山・伊豆大島などの事例研究 を実施し始めたところである。 (b)「社会基盤影響調査」と「影響回 避策研究」の2つのWGを設置し、研 究を開始したところである。 (c)最近の研究成果のレビューを行な う予定である。 (d)平成16年11月6日に宮崎市宮日 会館にてシンポジウムを開催。 (e)雲仙普賢岳と三宅島の事例を参考 に研究の方針を検討中である。	A	一年間の活動状況、成果などを具体 的に記載する。	活動 項目 に対する 表価 値(A ~D) を記入 する		
	(2)斜面工学研究小委員会： (a)従来の斜面とは異なる観点で、災害、 維持管理、環境と生態系、景観と計画等を 考慮した総合科学としての斜面について、 一般書を企画出版する。 (b)毎回の研究委員会で、内外の専門家に よる総合科学としての斜面についてミニ ワークショップ(話題提供)を開催する。	(a)斜面工学研究小委員会での「知っ ておきたい斜面のはなしQ&A-斜面とく らす-」の企画出版 (b)約2ヶ月に1回委員会を開催し、 総合科学としての斜面について、毎 回ミニワークショップを開催した。	A				
	(3)土構造物の性能評価に関する研究小委 員会 (a)技術的手法から発注制度等を含 め、土構造物の性能規定化に向けた広範な 諸問題を明確にし、各論についての具体的 な課題・今後の提言等について検討を行 う。(b)「土構造物の性能 評価」に関する研究討論会を全国大会で実 施する。	①上位設計コードの具体化、②性能 評価の技術的手法に関する予測信頼 性と選択方法の提示、③性能設計に 伴う発注制度のあり方、の3本柱 としてWG形式による検討を進めて おり、個別課題の具体化と今後の検 討方針が定まりつつあるところであ る。	A				
理科教育の活性化と土木広報をかねて、地 盤工学に関わる教材資料の作成と提供をは かる。	(1)斜面工学研究小委員会での「知って おきたい斜面のはなしQ&A-斜面とく らす-」の企画出版 (2)新しい書籍・教材資料の検討	斜面工学研究小委員会の「知って おきたい斜面のはなしQ&A-斜面とく らす-」の企画出版が終了し、現在販 売促進中である。	B				
災害、事故、技術広報等、社会からの要求 に応じて適切な説明を行うことのできる体 制を、他学会と連携して組織していく。	(1)緊急災害調査マニュアル案の策定を行 なう。 (2)地盤工学会などの他学会との連携を 図る方針を決める。 (3)他学会との調整を図る。	現在、緊急災害調査マニュアルを平 成17年5月に作成を終了し、現在関 係部局機関に回覧を行なっている ところである。地盤工学会との連携に ついては、さらに議論を委員会内 で行なう予定である。	A				

部門名：

記入日：